

飛躍

TOKAI UNIVERSITY TAKANAWADAI JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL



東海大学附属高輪台高等学校・中等部 学校報

●発行日/2009年12月1日

●発行者/東海大学附属高輪台高等学校・中等部 校長・杉一郎

「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate thy thought in thy early days

若き日に汝の体を養え

Make thy body strong in thy early days

若き日に汝の智能を磨け

Improve thy wisdom in thy early days

若き日に汝の希望を星につなげ

Chain thy hope to the stars in thy early days

HIYAKU

第283号

TOP*NEWS

東海大学推薦者進学率 90%

中等部3年高輪台高等学校進学率 100%(予定)

SSH成果報告会を開催

第8回中高合同体育祭開催



科学英語プレゼンテーション(1年)
ギャリー先生の指導のもと、ジェスチャーをつけてプレゼンができるようになりました



課題実験(2年)
これから行う研究について発表しました



科学倫理(3年)
安楽死と尊厳死について発表し、ディスカッションしました



基礎理系数学(1年)
 $y=\sin\theta$ のグラフをストローで作りました

2009年度SSH成果報告会を10月30日に本校で開催しました。報告会には全国のSSH指定校をはじめ、東海大学および学園の高等学校から多くの先生方をお迎えし、本校のSSH活動の概要説明の後、SSHクラスの公開授業(1年:「科学英語プレゼンテーション」「基礎理系数学」、2年:「課題実験」、3年:「科学倫理」「課題研究」)を見学していただきました。また午後からは協議会が開かれ、活発な質疑応答が行われました。

第8回 中高合同体育祭開催



体育祭実行委員長 高塚 智恵子

3年2組 大田区立志茂田中学校出身

今年の体育祭は、雨やインフルエンザによる学級閉鎖で3度延期になり、4度目で開催することができました。中等部が3学年そろって、6学年と大人数でした。例年と違うのは昼休みに行ってた「部活動対抗リレー」を正式に種目に取り入れたり、障害物競争に「パン食い競争」を入れたことです。応援も競技もみんなが一生懸命頑張っていてよかったです。みなさんにとって楽しい体育祭になっていたらいいなと思います。

今回の体育祭も昨年と同様に、さまざまな部活動の人たちが、グラウンドの整備や競技の準備をしてくださって、スムーズに競技を行うことができました。参加してくれたみなさん、協力してくれたみなさんに感謝しています。ありがとうございました。来年は、今年以上に盛り上がってくれることを期待しています。



選手宣誓

高校代表が声高らかに宣誓します!!



準備体操

女子バレー部のリードのもと、体をしっかりほぐします



棒引き

たかが1本、されど1本!! ぜったいに渡さない!!



障害物競走

2人で息をあわせて



大縄跳び

スムーズに跳べるかが勝負を左右する



玉入れ

確実に入れるのは意外と難しい



台風の日

ふりおとされないよう必死で走り抜く!!



部活対抗リレー

今年から正式種目に!!



大玉おくり

高1から高3まで一緒に行う唯一の競技です



大玉ころがし(昼休み)

教員も必死に走ります



リレー(高校)

決勝に進出した猛者たちの熱い戦い!!!



リレー(中等部)

クラスのためにいざスタート!!

綱引き

呼吸をあわせて引っばるぞ!!

高校の結果
色別対抗

優勝 青組
準優勝 赤組
第3位 黄組

	1年(クラス)	2年(クラス)	3年(クラス)
赤	7組	3組・9組	1組・8組
オレンジ	1組・9組	4組	6組・7組
黄	2組・3組	6組	5組
緑	4組・5組	8組	2組
青	8組	2組	4組・9組
白	6組	1組	3組

中等部の結果
赤(A)・白(B)対抗

優勝 赤組(A組)
準優勝 白組(B組)

中等部 1 学年 だより

上手にかかれ、苦手を選べ

学年主任 笹木 春光

これは剣道修行の教訓です。剣道の稽古は自分より強い人にかかり、自分の最も苦手とする人を選んでやらなければ強くも上手くもならないという、修行の心がけを教えた言葉です。ですから、何年たっても強くならない人は、日ごろの稽古が常に逃げ腰であり、自分より弱い人や、やりやすい人ばかりをつかまえて稽古をやっているものです。

さて皆さん、このことを学校生活に置き換えてみましょう。好きな教科ばかりを一生懸命勉強して、苦手な教科は少ししかやらない。気の合う仲間や先生ばかりと付き合っ、それ以外の人とは接触しない。楽な仕事ばかりを引き受けて、人が嫌がるような仕事は一切しない…など。少しこじつけているかもしれませんが、これらのことを「上手にかかれ、苦手を選べ」の精神で克服できれば、人間的に深く幅広くなれると思うのです。

自分を高めるため、あるいは自分が本当にやりたいことをやるためには、やりたくないことや嫌なことを、むしろ進んでやる必要があるのかもしれない。

〈参考文献：『剣道いろは論語』 井上正孝 体育スポーツ出版社〉

初めての中高合同体育祭

中村 実歩

1年A組 品川区立伊藤小学校出身

今回の中高合同体育祭は、私にとって初めての体育祭でした。私は選抜リレーという競技に出ました。私のチームは負けていてなかなか前のチームに追いつけませんが、私の順番がきた時に一生懸命走って、最後の最後で前の人を抜くことができました。その時は、とてもうれしくて達成感を感じました。

また、私がすごいと思った競技の1つに部活対抗リレーがあります。柔道部だったら柔道着を着て、バスケットボール部だったらバスケットボールのユニフォームを着て走るリレーです。剣道部の人達はものすごく重たそうなのに、一生懸命走っていてすごいと思いました。

綱引きも見応えがありました。最初から準備している人と、笛が鳴ってから走って行って綱を引きに行く人がいて、普通の綱引きとは違うところが楽しかったです。見ているほうも楽しめる競技なので良いと思いました。

また、高校生の選抜リレーは中等部よりもとても迫力があって楽しかったです。私も高校生になったら選抜リレーや部活動対抗リレーに出たいです。今回の中高合同体育祭は、中等部だけの体育祭と違う楽しみ方ができてとても良かったです。

初めて行った合同体育祭

村山 恭平

1年B組 品川区立後地小学校出身

僕は初めて中高合同体育祭を経験しました。中高合同体育祭は、僕たちが春に行った中等部体育祭とは違い、高校生の先輩方がいたので迫力がありません。その分僕たちの出番は少なかったのですが、僕が出た種目は大縄飛び・大玉送りです。大玉送りでは、最初赤組に負けていましたが、白組が逆転し勝つことができたので良かったです。大縄跳びは、春の体育祭では1位でしたが、今回は4位になってしまいました。少し悔しかったです。来年はもっと練習して1位になりたいと思います。

高校生の種目で印象に残ったのは、部活対抗リレーです。色々な部活動のユニフォームを着ていて、とても笑えて面白かったです。その中でも陸上部の人達は、とても足が速くてすごかったです。

僕はこのように楽しい中高合同体育祭ができてとても良かったと思います。来年の体育祭もどんどん盛り上げていって心に残る体育祭になるように頑張りたいと思います。



A組がんばります



B組負けません



見よ、この快足

中等部2学年だより

中高合同体育祭

今年の中高合同体育祭はインフルエンザの影響でA、B組ともに多数の欠席の中での実施となりました。



全競技全員参加のB組



1年ぶりの玉入れ



高校生も応援しました!!



大玉おくり

授業の様子

行事が盛りだくさんで慌ただしかった9月、10月が終わり、落ち着いて授業を受けています。後期中間試験がよいよ始まりませんが、後期に入ってどんなことを勉強しているのか、各教科係のみなさんに聞いてみました!!

数学

証明を勉強しています。とても複雑で難しいですが、皆頑張って理解しようとしているので授業がスムーズに進み、クラスの雰囲気も良くて気持ちいいです。内容はどんどん難しくなって大変ですが、集中して頑張りたいです。

(2B 島袋良暉)



体育

男子:卓球をしています。フォアハンドやバックハンドの練習をしていて、卓球台にアウトにならずに入れるのは大変ですが、回転をかけたりスマッシュを打ったりすることが楽しいです。
女子:最近はバスケットボールをしています。バスケットは去年2回もつき指をしてしまい、怖いからあまり好きではありません。私は体育が苦手なのに教科係になってしまったので、苦手でなくなるように頑張りたいです。

(2A 青沼佑香)

体育移動授業



社会

歴史で鎌倉時代の出来事、文化、宗教を学習しています。社会は単語などを暗記すると思われがちですが、物事の始まりを資料などで考えさせてくれるような授業なのでとても楽しいです。

(2B 上村涼太)

理科

電流について勉強していて、とても難しく大変です。けれども先生の身振り手振りの教え方がとても面白いので授業はとても楽しいです。

(2A 武田壮弘)



国語

枕草子を勉強しています。文が長くて暗唱テストを覚えるのが大変ですが、覚えると達成感が味わえるので、楽しいです。

(2A 田澤充彦)

英語

今は不定詞を勉強しています。不定詞は「～をすること」「～するために」「～するべき」という3つの意味があり難しく、宿題も大変ですが、先生の使うアクティブボードが楽しいです。

(2B 大塚椋一)

美術

はんこ作りをしています。今はまだ石に下書きをしていますが、これが終わるとよいよ石を彫ることになります。彫刻刀を使うことになると思うので、けがをしないように注意したいです。

(2A 徳下善大)



音楽

アルトリコーダーに入りました。1年ぶりなので、色々忘れてしまい、思い出すのが大変です。インフルエンザの影響で授業をほとんどやっていないので、少しでも早く遅れを取り戻せるように頑張っていきたいです。

(2B 鈴木沙弥)

選択理科

電流や磁界についての学習を、実際に手回し発電機などの実験器具を使い、分かりやすく教えてもらっています。実際に自分たちでやることによって教科書では伝わらない部分もしっかりと理解することができそうですが、プリントにたくさん書くので大変です。

(2B 関史哉)

技術

木材を切ってそれを組み立てて作品を作っています。技術系の僕は他の人より先に次回することを聞けるので楽しいです。

(2A 菊池弘)

選択英会話

クラスを2つに分けてネイティブの先生に教わっています。普段関わることのないネイティブの先生としゃべったりすることができる英会話の授業は楽しく、他の学校にはないと思うのでうれしいです。

(2A 小林真奈)

中等部3学年だより

中高合同体育祭

6月の中等部の体育祭とは違った、高校生の迫力に興奮した中高合同体育祭を行うことができました。

最後の体育祭

亀本 理佳子

3年A組 川崎市立東住吉小学校出身

私が最も思い出に残っているのは、中等部の選抜リレーです。いつものことながら、盛り上がるこの種目で私はいつも応援担当ですが、出ている子のために一生懸命応援しています。今回も声がかれるほどたくさん応援しました。応援しているときはいつも以上にクラスが一致団結しているので、より一層盛り上がりました。そして結果、1位でゴール！本当に嬉しかったです。

中等部生活最後の体育祭はあっという間でしたが、みんなで協力して最後までやり遂げられたので、良い思い出ができました。残りの数ヶ月、このメンバーでもっとたくさんの思い出を作っていきたいです。

大縄について

佐野 杏

3年B組 大田区立開桜小学校出身

今回の中高合同体育祭、3種目しか出られなかったけれど、とても楽しかったです。私は特に大縄が一番おもしろかったです。結果は残念でしたが……。でも、大縄が得意な人も不得意な人もみんなそれぞれ頑張っていました。もうこのクラスと一緒に大きなことをするというとはなくなってしまおうと思うと残念です。縄跳びは、前の人との間隔をあけずに跳ぶのがとても難しかったです。しかし、みんなで一致団結できてとてもよかったと思います。高校生になっても、このようにクラスで団結できたら良いなと思います。



速い！速い！



たくさん入ったかな



みんな仲良くがんばりました☆

高校の部活動に参加し始めました

付属校の特性を活かし、中等部3年生は一足早く高校の部活動に参加し始めました。大きな期待と少しの不安を胸に、慣れない環境の中で高校生について行こうと頑張っています。

挑戦！

荒木 淳

3年A組 豊島区立清和小学校出身

僕は中等部のサッカー部に所属していましたが、最近になって高校サッカー部の練習に参加させてもらっています。高校生の練習は中等部の練習に比べて練習時間も長い、練習内容も違うので、ついていくのに今は必死になっています。特に中等部と比較して練習終了時間が遅いので、練習が終わって、くたくたになって家に帰ります。僕の今の課題は数え切れないほどありますが、高校生になるまでのあと半年間で、今の自分よりレベルアップして高校生になりたいです。

新しい部活動

鈴木 祐介

3年B組 荒川区立第五峽田小学校出身

僕は現在、高校のゴルフ部に参加させてもらっています。僕が高校の部活でゴルフ部に入りたいと思ったのは、中学1年生の後期です。その理由は中学入学した頃に学校外でゴルフを始めたからです。そして高校にはゴルフ部があると知り、入部したいと思うようになりました。ゴルフ部には10月下旬頃から参加させてもらっています。入った頃はいろいろわからないこともありましたが、先輩や顧問の先生が優しく教えてくれました。僕はこれから部活動をしていく上で自ら目標を持って頑張りたいです。

高校1学年だより

建学祭を振り返って — 英語スピーチコンテスト

学年主任 高橋 昇

1年のなかでも、秋は実りの多い季節です。それは、学校に関してもまた然りです。本校では、体育祭と建学祭という2大行事が顔を揃えるからです。

今年度の建学祭は、インフルエンザという外敵に見舞われながらも、成功裏に終わったと断言しても軽率ではないでしょう。

建学祭初日、1年生は英語スピーチコンテストを開催しました。数えて9回目のことです。自身、本校で3回目のコンテストを見守り、さらには審査員という大役を経験させてもらいました。決勝に進出した14名の生徒諸君は夏休み前に予選を勝ち抜き、夏休み中に原稿を練り上げ、さらには夏休み後に英語ネイティブ教員の指導を受けて本選に望んだだけに、各々は力作を披露することができたようです。

審査員としての私の目を引いたものは、生徒たちの英語運用能力もさることながら、それぞれのスピーチの内容のメ

ッセージ性です。なるほど、400余名の前で発表するということは、それ自身が緊張を強いられるものであり、さらには、外国語である英語を披露しなければならないという、二重の重圧があったに違いありません。その結果、残念なことに十分な実力を発揮できなかったという向きもありましょう。しかしながら、いかに緊張していたとしても、そのスピーチ内容は緊張とは無関係であり、メッセージ性の質感には大いに感動させられました。審査員の英語ネイティブ教員たちも同様の指摘をしていただけたら、私の感想は独りよがりのそれではないでしょう。

「英語が嫌い」「英語が苦手」という声が多い中、まだまだ本校の英語教育は捨てたものではない、と痛感させられた1日でありました。



「知性と品性、そして感性を」

学年所属 宮嶋 孝一

残念ながら球団初の日本シリーズ出場は逃しましたが、球団創設以来の最高成績を残したことでまた新たに何かを探りたいと思い、楽天イーグルス前監督・野村克也さんの『野村主義』という本を購入し、読みました。この本は出版されてからもう既に何ヶ月か経つのですが、私はとくに気にも留めず読んでいなかったのですが、思わず読んで笑ってしまいました。と同時に少し背筋がゾクゾクとしました。私が「気に留めず・・・」だったのは、興味がなかったのではなく、その必要がないと思っていたからです。読んでとっさに笑いが出たのもそのためです。なぜその必要がないと思ったのか……。[内容はおそらくこんな感じだろうな]という察しがほぼついていたのでした。

野村監督と私の出会いは15年以上前に遡ります。その頃野村監督は現役引退後の解説者時代で、中学校の野球チームの指導もされていました。私も小6の時にはそのチームに入団することを勧められました。しかし、そのチームは中学生ながらピッチャーは130km/h以上のボールを、バッターは軽く神宮球場のスタンドに放り込むような選手ばかりのチームだったこと、憧れの先輩がいたこともあり、私はその隣の地区のチームに入団した(3年間ずっと隣同士の練習

場だったのですが…)のですが、その後高校に入学し、野村監督のチーム出身の選手とも交流するようになると、野村監督の考え方を聞く機会ができました。その考え方自体は本にも書いてあるのですが(なので、ゾクゾクしたのはその考え方ではなく…)、その内容というのが、その当時から「少しも」変わっていないのです。『野村主義』を読んだ時の笑いとゾクゾク感はこの一貫した考え方に反応したからです。実は野村監督の著作は、市販されているものはおそらく全て読んでいます。最も古い25年も前に書かれたものもスタンスはほとんどと言っていいほど変わっていません。

「古い考え方」と捉える見方もありますが、私は単純に凄いと感じています。自分の考え方を確立し、貫き通し、それを伝え、実践する。このグリップのずれない感覚は生きていく上で非常に大切なのではないかと思います。モノの見方は人それぞれですが、「この線だけはゆずれない」(スカート丈とか、前髪とかではないですよ!)という自分のグリップを自分自身も持ち続けたいし、皆さんにも持って生活してほしいと思います。100点満点の「生き方」なんてないと思います。ただ、「自分ライン」を高校時代に模索し、失敗し、発展させながらどんどん高めていくことで、高輪台生としての“知性と品性、そして感性”がどんどん自分のものとなって備わっていくのではないのでしょうか。これこそが、「イイオンナ」「イイオトコ」への第一歩だと思っています。

(参考文献:『野村主義』野村克也 小学館)

高校2学年だより

「運転手」

学年主任 米谷 昭人

皆さんは、車に乗ったことが無いという人はいないと思います。でも、乗っていた車が通った道をしっかりと覚えている人はあまりいないと思います。ところが、運転手は覚えているものなのです。それは自分の意志で運転しているからです。助手席に乗っている人は、運転手が動かしている車に乗っているだけなので、自分の意志は関係ありません。そこで道を覚えることができないということになるわけです。同じ車に乗って

いるのに関わらず、道を覚えられる人と覚えられない人に分かれてしまうのです。

これは人生でも同じです。自分の意志で行動している人は、道を覚えて迷わずに進むことができます。反対に自分の意志で行動していない人は、道を覚えることが困難になり、道を外れてしまうことが多くなってしまいます。同じ高校、同じクラス、同じ部活に所属していても、自分の意志がなくてただ単に所属している人は道に迷ってしまうものなのです。皆さんは、人生の中の運転手ですか？ 助手席に座っている人ですか？

「絆～トップを走る熱い学年～」らしいスポーツ大会

4組学級担任 鈴木 康恵

2学年では10月31日にスポーツ大会が行われました。ハイレベルな戦いのバレーボール、決勝戦では何回もの延長のすえ両者優勝となったバスケットボール、けがをしながらも必死で戦ったドッジボール、昨年よりも格段に上達していた綱引きなど、数々の名場面に学年全体が熱く盛り上がりました。

今回のスポーツ大会で非常に印象的だったのは応援の様子です。クラス全員で出場しているクラスメイトに声援を送ったり、他クラスの競技でもクラス関係なく素晴らしいプレーには精いっぱい拍手を送り、励ましの声をかけている姿にとて

も感動しました。学年目標である「絆～トップを走る熱い学年～」にふさわしく、クラスの絆、学年の絆を深めることができたのではないのでしょうか。

現在、2年生は自分の将来や進路について真剣に考えなければならない時期になりました。また、部活動では自分たちが中心となり部を引っ張っていかねばならない立場でもあります。人それぞれ悩みがあるとは思いますが、2年生は1人1人が「トップを走る熱い学年」である自覚を持ち、努力しています。1年生、3年生の皆さんもそんな2年生を支えてほしいと思います。



高校3学年だより

生徒を見守ってきた学年団の先生方に一言お願いしました。

主任

江口 淳二

「今、何を為すべきか」を真剣に考えよう。残り少なくなる高校生活、最後まで全力投球で頑張ろう!

1組

塚田 信哉

「立つ鳥、跡を濁さず」別れを大切にできる人間は、素敵な出会いが待っています。

2組

大澤 泉

「百里を行く者は九十里を半ばとす」。高校生活を最後の最後まで充実させてください。「千里も一里」の気持ちも。

3組

吉川 博人

「過去」はかえられない。「未来」もわからない。「今」できることに精一杯の愛情と努力を。

4組

石井 みなみ

卒業までの登校日数も残り僅か。教室でクラスの仲間と一緒に授業を受けるのもあと少し。一日一日を大切に過ごしてください!!

5組

長田 一水

くるみらい。今のみんなは未来のみんなの目にどう映っているのでしょうか…
残された高校生活を充実したものにしてください。

6組

今井 貴志

「克己」。内なる己に打ち克つ。最大の敵は己の内なる「油断」「慢心」「憶病」「妥協」です。己に打ち克とう!

7組

金 恵潤

“Every cloud has a silver lining.”
辛くて、嫌な環境にあったとしても、そこには成功や幸せへつなげるチャンスがあるはず!そんなときは気持ちを切り替えて、前向きにいきましょう!

8組

稲葉 哲之介

あなたは10年後、どんな大人でありたいですか…。高校生活もあとわずか。今できること、やるべきことを大切に。

9組

上松 未来

このクラスで過ごすのもあと少し。卒業まで無遅刻・無欠席でいこう。思いやりをもって過ごそうね。

学年所属

若林 政和

人生は負けることが多い。失敗することが多い。くじけることが多い。そのくじけた時、困った時、泣きたくなった時が節目です。その時に己が強くなり成長する。

学年所属

橋本 衛

卒業が終着点ではない。今は、未来を目指し、しっかり力を蓄えるときだと思う。目の前のことに一生懸命取り組み、輝かしい未来を創り上げよう。

学年所属

松橋 敬一

どうぞ、喜びと感謝の気持ちを胸に、初心を忘れずに、新たな将来を切り開いて欲しいと思います。

学年所属

若井 牧夫

人様の迷惑になることだけはするな。それが人の道だ。親から教えられたことです。今も真理だと思います。自律し責任ある言動ができる成熟者を目指してください。



2010年度東海大学付属推薦入学合格者決定 多くの生徒が希望の専門分野に進む

今年、東海大学へ付属推薦入学が決まった生徒は380名で、希望者の全員が合格しました。これは3年生の約90%です。進路指導主任・学年主任の計画的な指導と学級担任のきめ細やかな生徒指導の結果、多くの生徒が、志望した分野への進学が決定しました。

「夢を未来に」

北海道から九州まで全国10キャンパスにひろがる19学部80学科の多様なフィールドには集う力があり、夢を形にしていけるエネルギーがあります。東海大学は、一人ひとりの人間力を養い、力強く羽ばたく学生を育てます。

昨年度から新たに付属推薦制度に導入された「特別学力推薦制度」は、適性審査を実施する学科を除いて全学部学科に拡大され、本校3年生の約80%の生徒が6月に希望する学科の内定を受けました。その後、適性審査や特別技能推薦、内部推薦による合格も加わり、付属推薦入学を希望する生徒の全員が合格しました。

内定を受けた生徒は、夏休み前にそれぞれのキャンパスで保護者同伴による説明会と個別面談を受けました。そこで提示された夏休みの個別課題は、10月から大学の先生方による添削やメール指導、高校への巡回指導、研究室訪問などによって、進学先学科への準備として展開されています。

また全員の生徒に、それぞれの進学先の学科から「研究レポート」の提出やインターネットを利用したe-Learning学習が指示されます。これらは、知的好奇心を深めたり、大学での講義を理解する基礎学力の充実などを図るためのもので、3年生は課題図書を読んだり調査研究をしたりしながら、次のステップに全力で取り組んでいきます。



●推薦状況

大学・短期大学	学部・校舎	人数
東海大学	文学部	52
	観光学部	34
	政治経済学部	21
	法学部	7
	教養学部	45
	国際文化学部	4
	理学部	18
	情報理工学部	6
	情報通信学部	42
	工学部	70
	芸術工学部	2
	海洋学部	9
	生物理工学部	1
	農学部	2
	体育学部	39
医学部	2	
健康科学部	11	
小計		365
東海大学短期大学部	静岡校舎	2
東海大学医療技術短期大学		4
ハワイ東海インターナショナルカレッジ		9
小計		15
総合計		380

体験留学の報告

夢の実現



佐藤 加奈
3年1組
目黒区立第九中学校出身

私は9月から、体験留学生として、文学部心理・社会学科で、水曜日の1限目と2限目に「心理学概論」を受講しています。大学生に交じて勉強する緊張感や、高校との授業スタイルの違いに、始めは戸惑いましたが、少しずつですが慣れてきた今、授業を楽しむことができるようになってきました。専門的かつ、馴染みのない言葉ばかりの授業ですが、わからないからこそ、さらに新たな興味が湧いてきます。高校生のうちに、このような貴重な体験ができることは、幸運なことであり、向上心を高めることに繋がると 생각합니다。自分の興味があること、好きなことを学べる喜びを、日々実感しています。また、早期に勉強を始めることで、より深く、さらには他分野の勉強時間を確保することができ、自分の教養を深めるためには、素晴らしい制度だと感じました。

夢をかなえるために、努力することを忘れず、大学で学んでいきたいです。

建学祭 バザー・けやき屋食堂 収益金を寄贈していただく

後援会の皆さま、ご協力ありがとうございました。 生徒に還元させていただきます。

10月10日(土)・11日(日)の両日、台風やインフルエンザの影響を大きく受けつつも、何とか無事に建学祭を終了することができました。直前の準備時間を短縮せざるをえない状況にも関わらず、来校されるお客様に喜んでいただけるよう生徒諸君・我々教員・後援会の方々が1つになった建学祭でした。特に、毎年行われ、人気のある後援会の「バザー」と「けやき屋食堂」から、今年も収益金として1,537,816円という多額のご寄付をいただきました。昨年度、この収益金は、音楽の授業や部活動及び合唱コンクールの練習用の「キーボード7台」、授業発表や行事で使用使用するポスター展示の用の「パネル10台」、また「ウォータークーラー1台」などを購入させていただきました。

毎年のことではありますが、建学祭に向けて、本年も多くの保護者の皆様にご協力をいただき、バザー用品を拠出させていただきました。この場をお借りし、御礼を申し上げます。また、建学祭当日、実際に活動していただきました後援会委員の皆様には、連日バザーの値付けや販売、けやき屋食堂での調

理、運営に多大なるご協力をいただきました。大きな収益はその賜物であります。皆様のご厚意をありがたく頂戴し、今年度も是非、生徒諸君に還元できるものを購入させていただきたいと考えております。色々な方面から援助していただき、本当にありがとうございました。



得点板、デジタルタイマー購入 — サッカー部インターハイ出場を記念して —

昨年度の野球部東東京大会準優勝に続き、今年度はサッカー部が東京都代表として奈良県で開催されたインターハイ(近畿まほろば総体)に出場しました。ここ数年本校の部活動は大きく成長しています。奈良でのインターハイサッカー応援では、選手の全力のプレーに、私たちが全力で応援した事を今でもよく覚えています。

今回のサッカー部の活躍を祝して、学校側として何か記念に残る物を購入しようということになり、サッカー部だけでなく、ラグビー部、陸上部、アメリカンフットボール部等か

ら意見を出していただき、得点ボードとデジタルタイマーを購入することに決めました。先日、各部活動の代表者を集めて記念の品を贈呈いたしました。

デジタルタイマーは、陸上の記録を表示するだけではなく、アメリカンフットボール、ラグビー等の経過時間、残り時間を表示できるのはもちろんのこと、テニス、ソフトテニスの得点表示にも使用できます。

各部活動で協力して使用計画を立てて、有効に、大切に使用していただきたいと思います。



松前重義記念基金 建学記念作文・小論文

2009年度松前重義記念基金建学記念小論文・作文の応募者の中から優秀作品として付属高校全体で4名、付属中学と中等部から4名が選ばれました。本校からも多数の応募がありましたが、選考の結果、以下のように中等部から2名、高校から2名の諸君が選ばれました。11月2日の創立65周年記念式典で校長より建学記念奨学金の証書と奨学金として中等部生徒に3万円、高校生徒に5万円分の図書券がそれぞれ授与されました。



左から藤野さん、有田くん、中山さん、今井くん

建学記念奨学金を頂いて

藤野 莉佳

2年A組 世田谷区立八幡小学校出身

今回、松前重義記念基金建学記念奨学金をいただくことになり、大きな驚きとともに喜びを感じています。作文というものあまり書いたことなかった私にとって大変よい機会になったと思います。書き始めから終わりまで指導して下さった田島先生に感謝し、いただいた奨学金はこれからの学校生活に有効に役立てていきたいです。また、今回の作文のテーマは「環境問題・エコ活動」についてということで、今世界で取り上げられている大きな問題のことをくわしく調べることができ、ここ高輪台でも行われている「エコキャップ運動」といった活動についても知ることができました。

皆さんも、これから私たちが携わることになるであろう問題について考えてみてください。

建学記念奨学金をいただいて

有田 達也

2年A組 私立大西学園小学校出身

今回、このような奨学金をいただくことになり、大変うれしく思っています。正直まだ、喜びよりも驚きの方が大きいです。今回の課題は「私が取り組むエコ活動と地球の未来」でした。今、一番ホットな話題です。最近では、鳩山首相が国連で「2020年までに1990年比CO2を25%削減する」と演説しました。この25%という数字には色々な意見があります。地球のことを考えれば当然のことと思います。しかし、経済の発展を考えれば簡単ではありません。環境問題は各国の対立があり難しい問題です。一国だけが努力しても「なにも変化しない」と疑問も生じます。でも多くの国・人々が協力していけば必ず変化は起こると思います。

記念作文を投稿するにあたり、ご指導いただいた田島一代先生に御礼申し上げます。

当たり前の幸福

中山 瑠璃

2年4組 練馬区立開進第一中学校出身

目が見えるということ。学校に行っているということ。家族と暮らしているということ。私達にとってこれらは極自然なことと言えるでしょう。しかしそれを「幸せだ」と感じたことがある人は、果たしてどれだけいるのでしょうか。

今回私が書いた小論文では、今年6月に話題を呼んだ盲目のピアニスト・辻井伸行さんの言葉を引用しながら、そんな「当たり前の幸福」をテーマに掲げました。普段は全く意識していないことであり、自分なりに納得できる結論に辿り着くまで何度も書き直しをしましたが、最終的に満足のいくものが書け、評価していただけたことを嬉しく思います。

一番大切なものは実はもう持っているのかもしれない。そんな風に、自分自身と向き直る良いきっかけにもなりました。

自殺否定、人生否定

今井 祥文

2年9組 文京区立第七中学校出身

何もかも嫌になって、死にたいと思ったことはないだろうか。だけど、大体の人は死ぬ一歩手前で恐怖に負けて、しぶしぶ生きることにする。僕はそれを繰り返していた。

今回、小論文に書いたのは「死ぬ勇気のない生は奴隷である。」という初期ローマ時代の哲学者セネカの言葉だが、それに従うならば僕たちの人生は奴隷とさせて頂き変わらないことになる。死ねるくらいの勇気を持って生きなくては、人生にさしたる価値などないのではないかと。僕はセネカの言葉をそう解釈する。

自殺否定者は多いが、自殺する勇気を持てたことは否定してはならないと思う。自殺を完全に否定するのは勇気を否定するのと同じなのだから、人生そのものを否定することになる。僕たちは勇気を持って自ら決断し、生きていかねばならないのだ。

SSH活動報告

3年SSHクラス45名は、「課題研究」という授業を行っています。この授業は、生徒自らテーマを決め観察・実験研究をします。なかなか結果が出ず、放課後や休日まで実験をやっている生徒もいました。その研究の成果を、全員が10月30日のSSH中間報告会でポスターにて発表しました。現在は、研究論文を作成しています。

飛べ! グライダー ～ 俺たちの夢を乗せて!! ～

仲澤 高德

3年9組 川崎市立田島中学校出身

僕たちが「グライダー」を研究テーマに選んだのは、飛行機などはどのようにして飛んでいるのか、子供の頃よく作った紙飛行機はどのように作ったらきれいに、そして遠くに飛ぶのか興味を持ったからです。課題研究をやっていたときは、辛いと感じたことがまったく無く、週に1度のこの時間が待ちどおしく、金曜は「早く午後にならないかな」と、よく思っていました。グライダーの形状を変えて、どの形状が良く飛ぶかどうかを研究しました。グライダーの機体が出来上がり、それがうまく飛んでくれた時の感動は忘れられません。授業時間内に実験が終わらず、休みの日もグライダーを飛ばしました。ポスター発表の時は、自分の実験内容を人に伝えることがとても難しかったです。僕たちの発表を聞いてくださった先生方に、改善点などいろいろとご指摘をいただいたので、今後それらを活かしていきたいです。僕たちの研究テーマを後輩が引き継いでくれるので、僕たちが行ってきた1年半の研究が少しでも役に立ってくれればと思っています。



実物を見せて説明します

課題研究をして

山中 紀央子

3年9組 台東区立上野中学校出身

私たちの研究は、金魚のウロコと尾ひれの移植と培養をしました。2年の時に抗体や補体について実験し、さらに免疫についての実験をしたいと思ったので、このテーマを選びました。最初は実験のことをすごく簡単に考えていました。どんな結果になるかただ楽しみで実験していました。しかし、現実はそのように甘くなく、失敗続きでした。結果は、ストレスなどいろいろなものが複雑に関わってくるので、どうしてそうなるのか考えても分からなく、先生と一緒に頭を抱えて悩みました。毎日のように放課後残って実験するのは大変で疲れますが、自分たちのやっていることが失敗にも成功にもつながる緊張感や成功したときの喜び、ひらめきや未知との遭遇のわくわく感は普通の授業では味わえないものだと思います。

発表は、自分たちの研究を見てもらえる場であり、他人の評価を受ける場です。厳しいことを言われることもあります。思っていた疑問や意見に新たな知遇を得られる場です。さらに、自分自身の研究について深く考えるので、研究の面白さや難しさを再認識させられます。研究的に大きな成果は得られなかったかもしれませんが、たくさんのことを考えさせられたし、やってきてよかったと心の底から思います。課題研究を通じて将来へのパワーをもらった気がします。



たくさん質問していただきました

課題研究 研究テーマ一覧

- 生物**
 - 「ウロコと尾ひれの培養」 遠藤(み)、山中、福田
 - 「野菜×やさい=?」細胞融合で新種の野菜をつくろう 秋山、福島(可)
 - 「キイロタマホユリカビの生態」 古屋
 - 「手足の菌に対する抗菌作用」 杉谷
 - 「魚はどのようにして群れをつくるのか」 吉田(理)、河井、川村
- 地学**
 - 「日食観測」 吉田(ま)、福島(理)、若林、山岡
- 化学**
 - 「いろいろな食用油からBDFをつくる」 昼沢、鈴木(大)、小川、伊藤
 - 「ブルーベリー増感型太陽電池の効率性」 滝沢
 - 「鉛筆を用いた電池の作成」 皆川、本橋

- 数学**
 - 「夢のチケット」 天野
 - 「サイクロイド」 松田
 - 「立体の切り出し」 大頭

- 情報**
 - 「JAVAプログラミングの活用」 遠藤(克)、玉井、松原、榎本、石井、平川、山内、高橋、里村

- 物理**
 - 「Y系超伝導体の作成とTc測定」 新井、藤井
 - 「自作グライダーの飛行距離の測定と飛行軌道の観測」 金子、仲澤、堀邊
 - 「理科に使える教材づくり」 鈴木(雄)、田中、夏見
 - 「The absorption of the sound」 有次、後田
 - 「長方形のクラード二図形」 豊田、田村

お知らせ

高校3年生特別講座開始

自ら学び、探求する姿勢を大切に!!

期間

12月9日(水)～1月29日(金)

目的

大学の授業に備え、高校時代に身につけておかなければならない知識などを、これまでの授業とは別の角度から学ぶ。

大学では、1人ひとりの学ぼうとする姿勢が高校以上に大切です。学習に対するしっかりとした姿勢を身につけましょう。

訂正とおわび

11月号2ページ英語ディベート大会の優勝クラスが誤っていました。
誤)3年1組→正)3年9組 おわびして訂正いたします。

行事予定

December 12月

January 1月

- 1日(火) 後期中間試験
(中等部～2日)(高1、高2、～4日)
卒業試験(高3、～4日)
- 3日(木) **スポーツ大会(中等部)** アリーナにて午前のみ、午後授業
- 4日(金) **校外行事(中等部)**
- 5日(土) 受験生・保護者学校説明見学会(高校、10:00)
- 7日(月) 自宅学習日(高3)
- 8日(火) 答案返却日(高3)、校医相談日
- 9日(水) 朝礼、特別講座開始(高3)
- 12日(土) 受験生・保護者学校説明見学会(中等部、10:00)
- 15日(火) 高校入試相談のため生徒自宅学習日(全学年)
- 16日(水) 保護者面談(中等部、～26日)
- 17日(木) 火曜日の授業
- 23日(水) **天皇誕生日**
- 24日(木) 冬期休暇前諸注意、大掃除(7限目)
- 25日(金) 冬期講習(～28日)
吹奏楽部第20回定期演奏会(ミューザ川崎、～26日)
- 29日(火) 年末年始休暇(～1月5日)

- 1日(金) **元旦**(カナダ中期留学～3月2日)
- 6日(水) 新春懇親会
- 7日(木) 朝礼、授業開始
- 9日(土) **東海大学進学相談会(高2)**
- 10日(日) 受験生・保護者学校説明見学会(中等部、10:00)
- 11日(月) **成人の日**
- 14日(木) 月曜日の授業
- 16日(土) **スポーツ大会(高1、アリーナ)**
- 18日(月) 本校推薦願書受付(高校)
- 20日(水) 中等部願書受付(第1回 30日まで、第2回 2月2日まで)
専門医によるカウンセリング
- 21日(木) 学年集会(中2、高2)
- 22日(金) 本校推薦入試(中1 都内英語バスツアー、
高校、中2 自宅学習日、中3 マナー講座)
- 23日(土) 英検(中:全員、高:希望者)漢検(希望者)
本校推薦入試合発表
- 25日(月) 本校推薦入学手続、本校一般入試願書受付(高校 31日まで)
- 28日(木) 学年集会(高3)、校医相談日
- 29日(金) 特別講座終了(高3)

教育実習の様子



編集後記

教室で高校1年生に今年のトップニュースを聞いてみた。どのクラスでも第1位は「新型インフルエンザ流行」。4月にメキシコで確認されてから、瞬く間に世界中に蔓延した。本校でも夏休み以降流行の兆しをみせたが、現在は小康状態だ。それにしても、新型インフルエンザは感染力こそ強いものの、毒性は低い。国内のこれまでの死者は50名ほど、毎年1万人以上の死者が出る季節性インフルエンザとは比較にならない。むやみに恐れる必要はないが、予防は必要だ。健やかな新年を迎えられるよう祈りたい。(か)

東海大学付属高輪台高等学校・中等部

TEL.03(3448)4011 FAX.03(3448)4020 ホームページ: <http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>